

酒々井町

郷土研究会会報

第122号

平成18年10月1日
酒々井町郷土研究会
広報部

三十周年

記念行事を迎えて

郷土研究会

会長 青木 朝次



郷土研究会報百号記念『二十五年のあゆみ』を発行してから、あつという間に結成30周年を迎えました。かえりみると昭和五十二年、郷土酒々井町を愛する同好の士が郷土の文化向上を祈って、相京晴次会長のもと発足して三十年が経過いたしました。

この間、町内史跡巡り・名勝探訪・仏像調査・野草観察・七草粥を食べる会・史談会・郷土史講座・古文書研究・絵馬調査・道標調査・街道を歩く会など活動し、会報を通して広報してまいりました。また、昨年は絵馬の写真集『しすいの絵馬』を発行することができました。会員数は発足時百六名でしたが、現在は二百名余りになっております。会員の皆様をはじめ、支えてくれた運営委員の方々に深く感謝の意

を表します。今後も郷土文化の向上発展に努めて参りたいと考えております。

今回三十周年記念行事として十月二十日より三日間、中央公民館において『佐倉牧と島田家文書』をテーマにした展示会を開催いたします。牧士頭の島田家に伝わる野馬日記や野馬絵図などを展示し、佐倉牧を偲んで見たいと思います。皆様ぜひご来場下さるようお願い申し上げます。

酒々井町郷土研究会

発足三十周年にあたり

酒々井町

町長 小坂 泰久

酒々井町郷土研究会発足三十周年おめでとうございます。昭和五十二年三月、相京晴次氏が先頭に立って郷土を愛する同好者百六名により酒々井地方に関する歴史、地誌、考古、民族等の事柄について調査研究

し、郷土文化の向上発展に努めることを目的とする酒々井町郷土研究会が立ち上げられました。

確か私の記憶では、相京晴次氏は当時、酒々井町教育委員会に所属し、酒々井町の民家に残る古文書の調査をしておられました。氏は戦前から郷土の歴史を調べ自身のノートに書き記していました。戦時中に供出され今は無き妙楽寺の梵鐘の金石文など、私もその一部を見せて頂き大変参考になりました。その多くは氏が中心になって編集された酒々井町史の中に書き留められていると思われませんがこれ以外の多くのものが未だそのノートの中にあると思います。多分町教育委員会の倉庫か又は子孫の方が保存されている事と思われます、今一度拝見できたらと思っております。

また酒々井町史は郷土研究会の皆さんの努力、協力で出来たと云っても過言ではありません、それは町内古文書の調査など地道な活動を通じて積み上げられた成果の上に成り立っているからです。

その後、私は仕事の関係で郷土研究会を離れさせていただきましたが

十五周年記念として、古文書調査等には大変便利な「日本史年代・干支暦表」を作成され、また会報の発行など多くの事跡を残され、その伝統を受け継がれています。現在青木朝次会長のもと郷土を愛する同好の皆様が更なる活動を展開されておられることを大変ありがたかつ心強く思います。今後更なるご活躍を期待するとともに、酒々井町郷土研究会の益々のご発展を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。



創立三十周年に寄せて

酒々井町文化協会

会長 星野 明雄

この度貴研究会が創立三十周年を迎えられたことを心よりお慶び申し上げます。指折り数え上げるまでも

なく、この歳月は尋常のものではなく、この間着実に町の文化発展に寄与された貴会の皆様に敬意を表すると共に、心より感謝申し上げます。過ぐる八月二十七日貴会主催の講演会「佐倉牧と酒々井」にご招待を受け郷土にまつわる勉強をさせていただきました。江戸時代の佐倉、八街、富里、更には香取に至る広大な原野を疾走する野馬の、大地を揺るがす蹄の音が聞こえてくるような、そして、本佐倉城の城下祭りで賑わう酒々井の街道で行われた競馬を沿道で見物する町民の一人になったような、そんなムードにさせてくれた木内達彦講師のお話でした。

「郷土のことを知る」ということの楽しさはきつとこのような「臨場感」なのかも知れません。事実の裏に必ず人がいる。その時代のその人が何かを考えて行動したそのことが歴史として残る。私達は後日、その事実を目にし、そこから「なぜ」を紐解くのでしよう。そんな楽しみを日常の物としておられる貴会の皆様を心から羨ましく思います。貴会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

小石川方面

探訪に参加して

苦米地 梶子

梅雨入り前の六月六日、曇り空でしたが雨も降らず散策日和の中、三十二名の参加で小石川方面に出掛けてきました。京成酒々井を出発し、日暮里で乗り換え水道橋下車で、東京ドーム隣の小石川後樂園に行きました。

そこは、水戸徳川家江戸屋敷の庭園として江戸時代の初期に造られ、国の特別史跡・名勝に指定されている。園内は思っていたより広くいろいろな花木が植えてあり、どの季節に行っても楽しめる所でした。水戸の土産品を売る売店があったり、今の季節木々の緑とスイレンや花菖蒲が咲いていて、一時間ほどかけて一周りし、都会に居るとは思えないゆったりとしたひとときを過ごすことが出来ました。

つぎに後樂園から一駅の名荷谷で下車、十五分ほど歩いて小石川植物園に到着し、園内を一時間ほど副会長の案内で廻りました。約三〇〇年前に徳川幕府が設けた「小石川御薬園」に源を發しており日本最古の植物園で、約一〇〇年まえから正式には東京大学

大学院理学系研究科付属植物園になつたそうです。園内はとても広く、長い歴史を物語る数多くの由緒ある植物や遺構があり、いろいろな山野草が自生していました。また、普段身近で見かける草花が薬草園にいつぱい植えられてあるのには、びっくりしました。

少し遅めの昼食を日本庭園で済ませ二時半ごろ現地を出発し、帰りは白山から巢鴨経由で上野に行き、京成で酒々井に戻りました。

天気にも恵まれ緑の中を散歩できて、気持ちのよい一日を過ごすことが出来ました。案内してくださつた役員の方々お世話様でした。



郷土史講座は大盛況

今年の郷土史講座は八月二十七日「佐倉牧と酒々井」という題で、町教育委員会の木内達彦氏にご講演をいただきました。当日は会場の研修室が満杯になるほどの大盛況でした。多くの皆様のご参加ありがとうございました。

講演内容のあらましをお知らせします。

●江戸時代の酒々井町は城下町であり宿場町であった。それに野馬会所という珍しい町であった。佐倉六町とは田町・新町・弥勒町・本町・本佐倉町・酒々井町である。宿場町としては江戸から小岩・市川・船橋・大和田・佐倉・酒々井と結ばれ酒々井は公設の宿として位置付けられていた。

●牧とは江戸時代を通じて、広い土地のある下総台地・房総丘陵・富士裾野などで幕府野馬方役所が軍馬・荷役馬・農耕馬に使用する馬の生産をするため設けられたもので、野馬奉行が牧士を使って牧を管理していた。牧士は苗字帯刀の武士身分であ

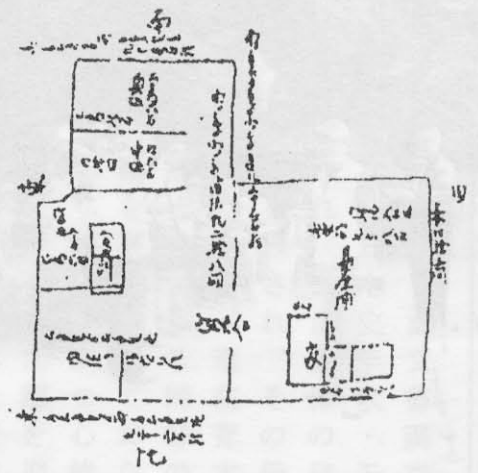


つた。牧士頭の島田家に伝わる野馬御用日記などが町文化財に指定されている。

●佐倉牧とは八街・富里、成田東部、香取南部に広がる幕府の七牧の総称で面積は一八〇キロ平方メートルである。佐倉七牧とは佐倉藩預り三牧の柳沢牧・高野牧・内野牧。それに野馬方役所酒々井会所に属する四牧の小間子牧(八街南部)、取香牧(空港)、矢作牧(旧大栄町)及び油田牧(香取西部)をいう。

●酒々井には四牧の役所が仲宿にあり島田牧士頭を始め三三名で広大な

佐倉牧野馬会所図



牧の管理運営全般をやっていた。ちなみに野馬土手も延長六〇キロメートル、野馬数三〇〇〇頭とか。

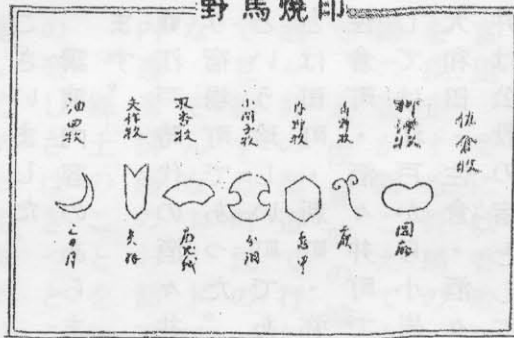
仕事としては牧の巡回、野犬等駆除、土手修理、植林、捕馬(二歳牡駒)、献上、競売、苦情処理など膨大な作業量であった。

酒々井の経済

例年旧暦の七月〜八月の捕馬期には下総・上総・常陸からの人で溢れ、牧場からの材木入札・物産販売で相当な金が動き、運送業者も数多くいた。八坂神社と勝蔵院の間で競馬や祭りが開催され盛況であった。佐倉藩への上納金は一万両にも達しているなど当時の酒々井の経済力は相当なものであったと考えられる。

佐倉牧の終焉(太政奉還後明治二年) 明治になり新政府の殖産興業の一環として幕府官牧であった小金牧(松戸)と佐倉牧の開墾政策が計画され五牧は開墾会社に払い下げられ開拓者を募集して開拓されていく。内野牧(七栄) 柳沢牧(八街) 油田牧(九美上) 高野牧(十倉) 矢作牧(十余三)

野馬焼印



の五牧は現在の立派な土地に開墾され、取香牧は明治五年官有の三里塚御料牧場となり今は新東京国際空港になり国の玄関口になっている。

酒々井町今昔

九、人形たたき(虫送り)

川島 俊彦

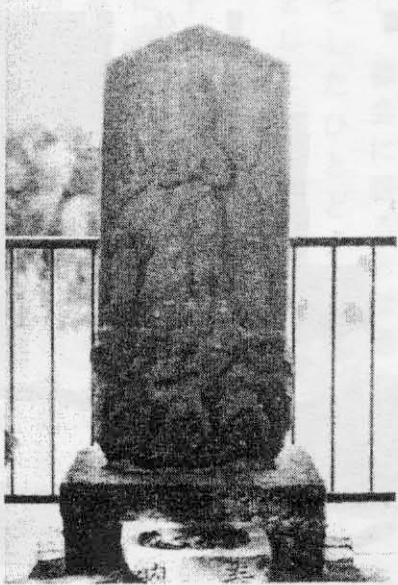
現在の国道五一号線が出来る前は、上本佐倉一三二番地の古川さんの前あたりからネッツトヨタさん(あかどう)を過ぎるまで一間ほどの赤道でした。

(明治三十七年の地図では神門まで続いていました。)

草が生い茂っており一つの塚がありました。その頂上には「庚申塔」(享保十年作)という石碑がありました。字南押出というところ。昭和四十九年国道五一号線が出来たので愛宕神社に移されました。

子供達は大人の手を借りて藁人形を作り竹の先へしぱりつけました。弁当といって藁苞の中へムスビを入れ取りはずれないように針金などでしぱりました。それぞれ各部落からたくさん子供達が集まり人形の叩き合いをしました。

これは悪い虫(悪霊)を送り出すという意味があったらしく、勝った者も負けた者も、弁当を分け合って食べたものです。



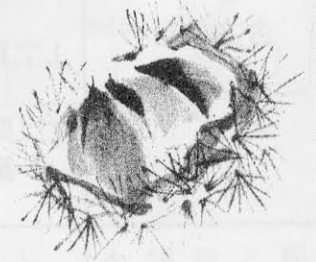
見学

案内

日帰り見学会

十一月二十四日(金)

雨天決行



我孫子方面

紅葉の時期、手賀沼付近の水質の改善の様子や鳥について学んでいきましょう。

手賀沼親水公園

手賀沼親水広場にはジャブジャブ池や人工の小川などがあります。園内には水の館があり、手賀沼の水に関する展示があります。また展望室からは四季折々の手賀沼の姿を一望することができます。

鳥の博物館

身近な鳥・手賀沼遊歩道沿いで観察した自然や鳥・人と鳥の共存についてなどいくつかのテーマに分けて展示してあります。

布施弁天

上野不忍池の不忍弁財天、江ノ島弁財天とともに関東三弁財天のひとつに数えられている。

大同二年(八〇二)に紅龍が現れて、一夜のうちに島を作ったのが亀甲山だという。現在ある本堂は江戸時代に再建されたもので本堂や楼門に施された龍の彫刻は見事だ。正式名は紅龍山東海寺。

名勝探訪

十二月五日(火)

雨天代替十二月八日(金)

帝釈天方面

フーテンの寅さんでお馴染みの柴又帝釈天へ行きます。参道の両側には、ダンゴ・センベ

イ・川魚料理・佃煮などの店を眺めながら、正面「男はつらいよ」でお馴染みの帝釈天の山門が見えてきます。参拝を済ませて、寅さん記念館へ行きます。ここでは、故渥美清さんに会ってきましょう。

また、見晴らしも素晴らしいです。小舟で、都内唯一の

渡し、「矢切の渡し」に乗り、小説「野菊の墓」の舞台となった西蓮寺に寄り、家路に着きます。

あとがき

台風十三号に伴う突風でJ・Rの特急列車が脱線横転したり、転覆した自動車、屋根のなくなった家屋などが映し出され自然の威力に今更ながら驚かされます。

九月二十六日には、五年に及ぶ小泉内閣に替わって安倍内閣が発足しました。外交問題、格差是正、少子化対策など日本の舵取りを間違わないようにしてもらいたいものです。

郷土研は酒々井町文化協会にも入会しました。文化協会の行事にもぜひご参加下さい。三十周年事業に向けて運営委員一同頑張っています。出来るだけ多くの方に見ていただきたく、皆様お誘い合わせの上お出かけ下さい。

郷土研日誌

月日	内容	参加者
6・28	会報印刷	4
7・30	会報発送	16
7・1	史談会	13
7・18	古文書を読む会	14
8・5	郷土研 研究会	16
8・11	会報打合せ	5
8・15	研修部会	6
8・27	郷土史講座	55
8・29	運営委員会	19
9・2	会報編集	4
	史談会	13
9・7	会報編集	4
9・12	会報編集	5
9・15	会報校正	5
9・19	古文書を読む会	8
	会報校正	5
9・21	会報校正	5
9・25	野草観察下見	6

郷土研行事案内

平成18年10月～12月

	10月	11月	12月
史談会	休 講	休 講	12月 2日(土) 13:30 中央公民館会議室 「和田のむかし」⑤ 講師：高橋健一先生
古文書を 読む会	10月 17日(火) 13:30 中央公民館会議室 「岡田家文書」⑥ 講師：青木朝次会長	11月 21日(火) 13:30 中央公民館会議室 「岡田家文書」⑦ 講師：青木朝次会長	12月 休 講
研究会	10月7日(土) 13:30 中央公民館会議室 テーマ 「千葉氏の研究」③ (平将門の乱) 講師 浜口 信義氏 (注) この研究会は、不定期に行われます。		
日帰り 見学会	<p>「我孫子方面」</p> <p>11月24日(金) 町バス利用 雨天決行 定員 33名 参加費 1,500円 (昼食代・入場料を含む)</p> <p>集合時刻・場所 8:50 中央公民館前広場 コース 中央公民館一柏・布施弁天一道の駅「しょうなん」<昼食> 一鳥の博物館一水の館一水生植物園一中央公民館 16:30頃帰着予定 (場合によりコース変更あり)</p> <p>キャンセル 実施3日前まで、寺本 へご連絡下さい。</p> <p>《申込受付》 10月6日(金) 9:00～10:00 中央公民館ロビー</p>		
名勝探訪	<p>「柴又帝釈天方面」</p> <p>12月5日(火) 雨天代替日 12月8日(金) (当日の間合せ 7:00～7:30 寺本まで)</p> <p>参加費 100円 (資料代) …別途、記念館入場料・渡船代必要 * 昼食 (弁当・飲み物等) は、各自で準備して下さい。</p> <p>集合時刻・場所 8:10 京成酒々井駅・構内改札口前 (階段上) コース 京成酒々井駅一高砂駅一柴又駅…柴又帝釈天(寅さん記念館)<昼食> …矢切の渡し[渡舟]…西蓮寺・野菊の墓…国府台駅一京成酒々井駅 16:00頃解散予定 (場合によりコース変更あり)</p>		
30周年 記念行事	<p>開催期間 10月20日(金)・12:00 ～ 10月22日(日)・14:30 場所 中央公民館・研修室(2階) テーマ 『佐倉牧と島田家文書』 皆様のご観覧を心よりお待ちしております。</p>		